

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。



JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

SUBSCRIPTION CONCERTS

2024

6

JUN

第 761 回
東京定期演奏会

Alban
BERG



Richard
STRAUSS



NOBUSUE
Sekitoshi



AKIYAMA
Kazuyoshi



Antonín
DVOŘÁK



※指揮者が大植英次氏に変更になりました

サントリーホール
2024年6月7日(金) 19:00
6月8日(土) 14:00

日本フィルハーモニー交響楽団

🎵 プログラム・ノート 解説:岩野 裕一 🎵

指揮者生活60年を迎えた秋山和慶マエストロが、骨折で降板することになったのは非常に残念だが、快癒したのち再び日本フィルと共演する日を楽しみに待ちたい。

そして今回、急遽指揮台に迎えられたのは大植英次マエストロだ。アメリカやドイツで活躍後、朝比奈隆の後を受けて大阪フィルの音楽監督をつとめて注目を集めた大植は、その音楽が近年とみに円熟味を増しつつある。昨年6月の日本フィル東京定期初登場における、チャイコフスキー「悲愴」の名演をご記憶の方も多いことだろう。隠れた名曲揃いのプログラムを大植がどのように聴かせるのか、大いに期待したい。

■ ベルク:管弦楽のための3つの小品 op.6

(リーア編曲による室内アンサンブル版、2015、日本初演)

19世紀に古典派からロマン派へと大きく花開いた西洋音楽は、19世紀後半になると周縁部のロシアや東欧、北欧から国民楽派が台頭する一方で、後期ロマン派の音楽はワーグナーやマーラー、リヒャルト・シュトラウスらによって巨大化し、爛熟していく。

そこに登場したのがアルノルト・シェーンベルク(1874-1951)で、二人の弟子、アントン・ウェーベルン(1883-1945)とアルバン・ベルク(1885-1935)とともに、表現主義の音楽を追求する。表現主義とは、恐怖や死、狂気など人間の肉体的な感情や真実を音楽で表す試みで、「新ウィーン楽派」と呼ばれる彼らの前衛的な音楽は、やがて十二音技法の発明や無調という、従来の音楽との訣別へと進んでいく。

アルバン・ベルクは、父親がウィーンの裕福な商人だったこともあり、幼少期から文学や美術、音楽に親しんだ。14歳頃から独学で作曲を手掛けるが、15歳で

父を亡くし、17歳で女中との間に私生児をもうけ、翌年には高校の卒業試験に失敗して自殺未遂を起こすなど、波乱の思春期を送る。その後、公務員として働いているとき、兄が作品をシェーンベルクに送ったことからその門弟となり、師から大きな刺激を受け、ウェーベルンとの交流も始まって本格的に作曲の道を志す。

かつてはマーラーにも傾倒していたベルクは、1912年頃には終楽章に声楽を伴う交響曲の作曲を構想するが断念。しかし、その翌年に師シェーンベルクから、管弦楽による性格的小品を書くように勧められる。こうして生まれたのが、「管弦楽のための3つの小品」だった。1914年のシェーンベルク40歳の誕生日に向けて作曲したものの、第1曲「前奏曲」と第3曲「行進曲」のみ間に合い、第2曲「ワルツ」を含む全3曲が完成したのは1915年8月で、全曲の初演は1930年まで待たねばならなかった。

シェーンベルクの「5つの管弦楽曲」か

らは複雑で精緻な書法を、マーラーの交響曲からは打楽器の多用やリズム動機の積極的な使用といった影響を受けているが、決して無機質にならず、むしろ後期ロマン派の調性音楽への近しさや独特の官能性が感じられるのは、ベルクならではの持ち味と言えるだろう。

原曲は4管編成で書かれた大規模な作品だが、今回演奏されるのは、カナダの作曲家ジョン・リーア(1944-)が1994年に編曲した「室内アンサンブル版」で、これが日本初演となる。原曲と同じユニヴェルザール出版社から楽譜が出版されており、初演は2015年3月にスイスのヴィンタートゥールで行われた。

2名ずつの弦楽器奏者に、持ち替え楽

器を伴う木管、金管と、3人の打楽器奏者、ハープ、ピアノが加わった28名の編成で演奏される。あたかもそれは、シェーンベルクが「私的音楽協会」を旗揚げしてマーラーの交響曲やウィンナ・ワルツを小編成に編曲したような試みであり、果たしてどのような響きになるのか、興味は尽きない。

楽器編成:フルート1(ピッコロ持替1、アルト・フルート持替1)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン持替1)、クラリネット3(Es管クラリネット持替1、バス・クラリネット持替1)、ファゴット2(コントラ・ファゴット持替1)、ホルン2、トランペット1、トロンボーン1(バス・トロンボーン持替1)、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、小太鼓、シンバル、トライアングル、シロフォン、銅鑼、ハンマー、ササラ、マリンバ、中太鼓、グロックンシュピール、ハープ1、ピアノ1(チェレスタ弾替1)、弦楽5部。

■ R.シュトラウス:ホルン協奏曲第2番 変ホ長調 TrV283

ドイツに生まれたりヒャルト・シュトラウス(1864-1949)は、若き日に交響詩やオペラの分野であまたの天才的な傑作を残し、前衛的な作風は1907年の歌劇《エレクトラ》でピークに達するが、次作の《ばらの騎士》(1912)以降、表現主義から離れて古き良き時代に回帰するような作風へと舵を切る。

ウィーンやミュンヘンなどの名門歌劇場で指揮者としても活躍し、ドイツ楽壇の中心的存在としてナチス政権下で帝国音楽院の総裁をつとめるが、ユダヤ人問題を巡って翻弄されたあげく、その職を辞して以降は、オーストリア国境に近いガルミッシュ＝パルテンキルヒェンの山荘で隠遁生活を送ることになる。

シュトラウスは当地で3つの管楽器のための協奏曲を生み出した。「ホルン

協奏曲第2番」(1942)、「オーボエ協奏曲」(1945)、「クラリネットとファゴットのための二重協奏曲」(1947)である。そのいずれも、モーツァルトが長命だったらこんな曲を書いたのではないか、と思わせる愛すべき佳品であり、とりわけホルン協奏曲第2番は、ホルン奏者だった父フランツのために18歳で作曲した「第1番」から60年を経て書かれたものである。

アルプスの山々に独奏ホルンがこだまするように始まる第1楽章、悠然とした大自然を思わせる第2楽章、狩りの角笛が縦横無尽に飛び跳ねるがごとき第3楽章と、熟達した書法でホルンの魅力を十全に伝えている。

楽器編成:独奏ホルン、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ2、弦楽5部。

■ ドヴォルジャーク:交響曲第7番 二短調 op.70 B.141

指揮者や音楽家にはなぜか鉄道好きが多い。五線譜というレールの上を、一定の規則性をもって進んでいく音符への憧れが鉄道に通じるのではないか、という説もあるが、その本家本元というべき人物が、ボヘミア(現在のチェコ)の国民楽派を代表する作曲家アントニン・ドヴォルジャーク(1841-1904)だ。

ドヴォルジャークの活躍した19世紀は、まさに「鉄道の時代」であり、第一次産業革命によって蒸気機関車というハイテク機器が発明され、ヨーロッパ全土に鉄道網が一気に広がっていった。

ブラハ音楽院の院長時代、毎日決まった時間にブラハ駅へと足を運び、ウィーンから到着する国際列車を牽引する機関車の番号を欠かさずメモしていた、とか、晩年にアメリカ大陸に渡ったのも大陸横断鉄道の新型機関車を見たかったから、などとまことしやかに言われるように、ドヴォルジャークのマニアぶりを伝える逸話は枚挙にいとまがない。その作品の中でも、この「交響曲第7番」からは鉄道の姿が濃く感じられる。

第1楽章冒頭のチェロとヴィオラによるほの暗い第1主題は、ハスブルク家のボヘミア支配に反抗してきた愛国者たちを乗せた列車が、ハンガリーからブラハ駅に到着した情景からインスピレーションを得た、と解説されているが、それ以外の個所、たとえば第4楽章の冒頭は、静かに停車している蒸気機関車が次第にエネルギーを蓄え、合図とともに巨体を軋ませながら加速して、煙や蒸気を規則正しく吐

きながらボヘミアの野山を走り抜けていくさまのようにも感じられるし、第3楽章終盤の加速ぶりも列車のそれを思わせる。

1884年の末から85年春にかけて作曲され、ロンドンで初演されたこの作品は、敬愛するブラームスの「第3交響曲」との類似性もしばしば指摘される。ドイツの交響曲に見られる重厚で構築的な響きと、ボヘミアの民族的なリズムやメロディが巧みに融合された正統派の交響曲として、初演から大きな成功を収めたことで、ドヴォルジャークは国際的な作曲家行ききの切符を手にしたのである。

第1楽章 アレグロ・マエストロ

前作の序曲「フス教徒」に由来するメロディがしばしば登場するのは、異民族の支配に抵抗する運動への共感を示すものといわれる。

第2楽章 ポコ・アダージョ

コラール風ののどかな旋律に始まり、中間部ではブラームスを思わせるホルンが牧歌的に響く。

第3楽章 スケルツォ:ヴィヴァーチェ
ポコ・メノ・モツ

チェコの民族舞曲フリアントが緩急をもって奏でられる楽章。

第4楽章 フィナーレ:アレグロ

序曲「フス教徒」の主題はこの終楽章でも使われており、暗く激しい音楽が続くが、コーダでは長調に転じて輝かしい勝利を予感させる。

楽器編成:フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、ティンパニ、弦楽5部。



PHOTO 1 4月18日 ミュージック・ベンクラブ授賞式
2023年度ミュージック・ベンクラブ音楽賞の授賞式が行われました。日本フィルからは理事長の平井俊邦、企画制作部部長の益満行裕が出席、首席指揮者カーチン・ウォンは動画にてメッセージを寄せました。以下ページでレポートをお読みいただけます。
japanphil.or.jp/news/26198



PHOTO 2 4月20日 明日へ響け!オーケストラ・コンサート2024in南相馬♪
東日本大震災以降、幾度となく訪問している南相馬ですが、念願叶っての初めてのオーケストラ公演が実現しました。あたたかい雰囲気の中、無事2公演終了!指揮は永峰大輔さん、ナビゲーターは江原陽子さん(前半公演)と石井あみさん(後半公演)にご出演いただきました。(詳しくはP18をご覧ください)



PHOTO 3 4月27日 横浜定期演奏会、28日芸劇シリーズ*
横山幸雄マエストロが紡ぐショパンのピアノとオーケストラをお楽しみいただきました。この弾き振りシリーズ、第2弾は来年の横浜定期演奏会で予定されています。
28日公演終了後、みんなで記念撮影!



PHOTO 4 4月29日 オケのテイキはおもしろい
日本フィルコミュニケーションディレクターのマイケル・スペンサーによるワークショップ、オケのテイキはおもしろいを開催。定期演奏会で取り上げる作品を様々なアプロウチで紐解くこのワークショップ、今回のテーマは「マーラー:交響曲第9番」。楽員による演奏ありの新しい音楽の楽しみ方をお届けしました。(後日レポートをホームページ等でアップいたします)

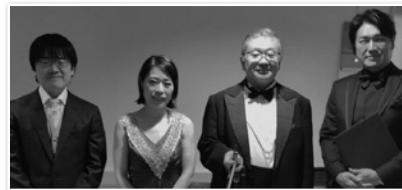


PHOTO 5 5月2日 にじくら第4回
指揮は太田弦さん、ピアノは上原彩子さん、ナビゲーターは高橋克典さんでお届けした公演は、ゴールデン・ウィークの間に挟まった公演日にもかかわらず完売御礼!ありがとうございます。終演後に出演のお三方とコンマスの木野雅之でしゃり



PHOTO 6 5月6日 小学生からのクラシックコンサート
指揮の海老原光さんとナビゲーターの江原陽子さんと共に、グリーグの《ペール・ギュント》の音楽にのせてペールを愛する二人の女性の物語をお届けしました。手拍子やひらひらダンスでお客様も参加し、会場も楽しく盛り上がりました!

*印のアーカイブ配信はMember's TVU CHANNELで。
<https://members.tvuch.com>



NEXT CONCERTS
》 次回東京定期演奏会

第 **762** 回

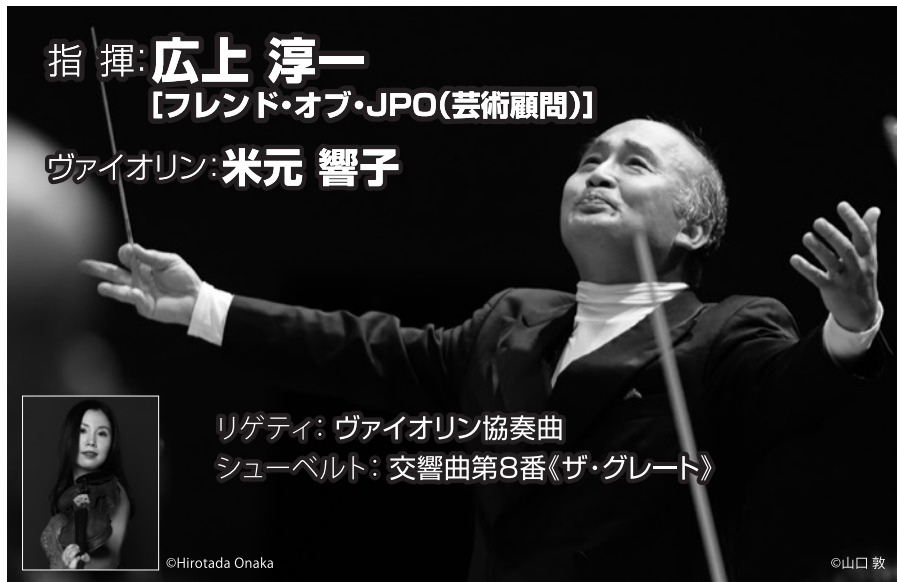
サントリーホール

2024年7月12日(金)19:00開演

13日(土)14:00開演

リゲティの摩訶不思議な異世界と
シューベルトの壮大な交響曲

フルート
広上 淳一氏 & 奥田 佳道氏
18:30~



1回券料金 S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C 完売 P ¥4,000 Ys (25歳以下) ¥1,500

※障害者手帳をお持ちの方は割引がございますので、サービスセンターにお問い合わせください。

次回東京定期演奏会指揮者にインタビュー!

広上 淳一 編

きき手 奥田 佳道

広上淳一、シューベルトの《ザ・グレート》を語る

「好きなシンフォニーです。日本フィルで最初に振ったのはいつだったか。定期デビューの次だったかな。ずいぶん時間が経った。60歳台半ばを過ぎた今、お客さん、日本フィルに伝えたいものがあってね。一言で言えば、それは祈り。あと感謝」

筆者注:広上淳一の日本フィル定期デビューは1988年12月の第406回東京定期で、アンジェラ・ヒューエットとバッハのピアノ協奏曲、それにマーラーの交響曲第6番イ短調通称「悲劇的」。シューベルトの交響曲第8番ハ長調通称「ザ・グレート」を指揮したのは1990年10月の第424回東京定期で、プログラム前半にメンデルスゾーンの交響曲第3番イ短調《スコットランド》を奏でた。

「その頃の演奏って覚えているものだね。若い頃はとにかく作品自体を信じて、ポジティブに元気にぶつかっていった。名曲コンサートで指揮したベートーヴェン先生の交響曲第7番の録音を聴くと、いろいろなことを思い出す。何かを夢中になって届けたいというエネルギーがすごい。あなた(奥田佳道)が夜中のラジオ(ラジオ深夜便クラシックの遺伝子)で放送してくれた、外山雄三先生の『ノールショピング交響楽団のためのプレリユード』(演奏:広上指揮ノールショピング響、1994年録音)を聴いた時にも思ったよ。

作品を信じる、音楽に委ねる気持ちは、いまも全く変わっていない。そのために勉強しなければならぬことは多くなった。

さっき言った祈り。僕も60歳台半ばになった(5月5日に66歳になった)。この歳でもう一回《ザ・グレート》を勉強すると、シューベルト先生の音楽に、以前よりも祈りの要素を感じる。

具体的には第2楽章、第3楽章の途中。シューベルト先生はいつものように繰り返しをしながら、歌を歌いながら祈っているんだ。

このシンフォニー。音符は細かくて、しかもその音符はじっとしていない。いつも動いている。それが、繰り返しのなかで重なって行って、最後に大きな線になる——そのプロセスというか道中に感謝と祈りがあることが前よりも分かってきたし、シューベルト先生の素晴らしさを皆さんにお伝えするのが僕の仕事だと思うようになった。

でも表現の上で、当然、広上淳一独特のテンポは出てくると思う」

シューベルトの交響曲第8番ハ長調、通称《ザ・グレート》(グレイト、大ハ長調、大ハ長調交響曲などの表記もあり)は、1825年から1826年にかけてウィーンで作曲され、ウィーン楽友協会での試演や抜粋演奏を経て、1839年3月にメンデルスゾーン指揮ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の定期公演で披露された。一般的には、ウィーンを訪れたシューマンが、楽友協会の司書や歴史家、シューベルトの兄フェルディナントを通じ、この長編交響曲の写譜を入手。それを親友のメンデルスゾーンに送ったことで公開初演が実現した、と解説される。実はいくつか検証が必要な史実なのだが、それはまた別のお話。

ところで今年はベートーヴェンの交響曲第9番が初演されて200年のアニヴァーサリー・イヤー。シューベルトは、ベートーヴェンの序曲「献堂式」、ミサ・ソレムニスの一部、それに「新作交響曲」がケルントナートーア劇場で初演されることを知っていた。友人に宛てて、自分もいつかそんなコンサートを開催してみたい、と記している。「第9」初演の場にいたかどうかは重要ではない。

「第4楽章に“第9”を意識したフレーズが出てきますよね。あれはベートーヴェン先生と“第9”へのオマージュです」

今年生誕100年、ジェルジ・リゲティ(1923~2006)の難曲ヴァイオリン協奏曲(作曲:1990年、改訂:1992年)も定期の華だ。

「僕が最も評価するヴァイオリニストのひとり、米元響子さんにお願ひしました。彼女の希望でもあります。米元さんのことは10代の頃から知っていてよく共演しています。親友でもあるヴァイオリニストのボリス・ベルキンが認めた才能で、少し前からオランダのマーストリヒト音楽院の教授。ソロもオーケストラも技術的に難しい上に、曲の最後に瞠目すべきカデンツァがあり、聴き逃さないですよ。知らない曲と言わないで感じて欲しいな」

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))
独立行政法人日本芸術文化振興会



今後の日本フィル出演公演 2024年6月～8月

2024	公演/会場/日時	出演者/曲目	チケット/お問い合わせ
6月	第398回横浜定期演奏会 横浜みなとみらいホール 15[土]17:00	指揮:小林 研一郎[桂冠名誉指揮者] ピアノ:エリソ・ヴィルサラーゼ ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第5番《皇帝》 ベートーヴェン:交響曲第6番《田園》	好評発売中 日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪
	第405回名曲コンサート サントリーホール 16[日]14:00		
	がん患者さんが歌う 第九 チャリティーコンサート 東京オペラシティコンサートホール 30[日]14:00	指揮:藤岡 幸夫 ソプラノ:小林 沙羅 メゾソプラノ:石田 滉 テノール:錦織 健 バリトン:宮本 益光 ベートーヴェン:交響曲第9番《合唱》他	主催: (公財)がん研究会がん研有明病院 日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪
	第144回さいたま定期演奏会 ソニックシティ 6[土]14:00	指揮:鈴木 優人 サクソフォン:上野 耕平* トマジ:バラード ーサクソフォンと管弦楽のための* ピアノ(啼鶯編曲):《エスクアロ(鮫)》*/ 《オプリピオン(忘却)》*/《リベルタンゴ》* ベートーヴェン:交響曲第7番	日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪
	第399回横浜定期演奏会 横浜みなとみらいホール 7[日]17:00		
7月	第762回東京定期演奏会 サントリーホール 12[金]19:00 13[土]14:00	指揮:広上 淳一 [フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)] ヴァイオリン:米元 響子 リゲティ:ヴァイオリン協奏曲 シューベルト: 交響曲第8番《ザ・グレート》	好評発売中 日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪
	第50回夏休みコンサート2024 サントリーホール 横浜みなとみらいホール 他で開催 19[日][金]～8月6[日][火]	詳細はP32をご覧ください	好評発売中 日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪
8月	東北の夢プロジェクト2024 楽しいオーケストラin岩手 トースタックホール岩手 (岩手県民会館) 5[月]16:30	指揮:永峰 大輔 ピアノ:上原 彩子 お話とうた:江原 陽子 【第1部】オーケストラ! 【第2部】わくわくピアノ! 【第3部】子どもたちのステージ 葛巻神楽「鶏舞」(葛巻町立葛巻中学校) 4校合同「つながる」絆合唱団 (岩手県立久慈高校、宮古高校、 釜石高校、高田高校) 【第4部】みんなでいっしょに	日本フィルeチケット♪ お問い合わせ: 岩手日報社事業部 019-653-4121

2024	公演/会場/日時	出演者/曲目	チケット/お問い合わせ
8月	フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2024 ミュージア川崎シンフォニーホール 9[金]15:00	指揮:広上 淳一 [フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)] ヴァイオリン:服部 百音 J.シュトラウス2世:ポルカ《狩》 メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲 チャイコフスキー:交響曲第5番	好評発売中 お問い合わせ: ミュージア川崎 シンフォニーホール
	東北の夢プロジェクト2024 楽しいオーケストラin福島 けんしん郡山文化センター 11[日・祝]17:30	指揮:永峰 大輔 ピアノ:上原 彩子 お話とうた:石井 あみ 【第1部】オーケストラ! 【第2部】わくわくピアノ! 【第3部】子どもたちのステージ 請戸の田植踊(請戸芸能保存会) 田村市立船引中学校吹奏楽部 【第4部】みんなでいっしょに	日本フィルeチケット♪ お問い合わせ: 福島民報社事業局 024-531-4101
	落合陽一×日本フィル プロジェクトVOL.8 《変幻する音楽会》 サントリーホール 20[火]19:00	演出・監修:落合 陽一 指揮:海老原 光 映像の奏者:WOW ゲスト:畑野熊野神社祭典青年鬼組(鬼太鼓) 藤倉大:「Demon Dance」(委嘱初演II) ベルリオーズ:幻想交響曲より 「魔女の夜宴の夢」他	日本フィルeチケット♪
	武蔵野合唱団 第54回定期演奏会 ミュージア川崎シンフォニーホール 23[金]19:00	指揮:松井 慶太 ソプラノ:田崎 尚美* バリトン:大沼 徹* バリトン:萩原 潤** 合唱:武蔵野合唱団 ワーグナー:歌劇《タンホイザー》より(*) ウォルトン:オラトリオ 《ベルジャザールの饗宴》(**)	お問い合わせ:武蔵野合唱団
	第22回東京音楽コンクール 金管部門本選 東京文化会館 28[水]16:00	指揮:鈴木 織衛 第2次予選通過者	お問い合わせ:東京文化会館
	東京フロイデ合唱団 第24回「第九」演奏会 東京芸術劇場 30[金]19:00	指揮:小松 長生 ソプラノ:小林 沙羅 メゾ・ソプラノ:林 美智子 テノール:福井 敬 バリトン:青山 貴 合唱:東京フロイデ合唱団 ベートーヴェン:交響曲第9番《合唱》	お問い合わせ: 東京フロイデ合唱団

日本フィル・サービスセンター TEL:03-5378-5911[平日10時-17時]
日本フィルeチケット♪ <https://eticket.japanphil.or.jp>

公演の詳細は日本フィル・ホームページでご確認ください。 www.japanphil.or.jp



渡邊曉雄音楽基金 音楽賞・特別賞受賞者発表

音楽賞 なし

特別賞 西山 信雄

略歴 1956年神奈川県に生まれる。1980年株式会社読売旅行入社。

1981年読売日本交響楽団欧州公演41日間(指揮ラファエル・フリーベック・デ・ブルゴス氏)、1984年東京フィルハーモニー交響楽団欧州公演49日間(指揮尾高忠明氏)、1985年日本フィルハーモニー交響楽団欧州公演51日間(指揮渡邊曉雄氏、小林研一郎氏)、1985年徳仁親王(現天皇陛下)のオックスフォード大学卒業コンサートを始め、現在迄にNHK交響楽団等全国幾多のオーケストラの海外公演を44年間で80回あまりアレンジ・添乗する。100人を超す楽団員・楽器の移動・宿泊に安全、安心、体調面を常に心掛けている。

2024年も引き続き海外公演を手掛けている。



*** 授賞理由 ***

西山信雄氏は44年間の長きにわたり株式会社読売旅行にて日本の数多くのオーケストラの海外への渡航公演における移動、宿泊、楽器運搬等々の手配に関するスペシャリストとしての重責を担った。氏の担当した海外公演は日本オーケストラ連盟正会員の楽団に限っても実に14楽団、延べ59回*に及ぶ。(*コロナ等による中止含む)

オーケストラにとっての海外公演は、その楽団の実力・個性をさらに磨きあげ、また音楽による国際文化交流の役割を担う大きな意義を持つものであるが、慣れない環境下で楽団員一人ひとりのコンディションの維持が非常に困難となることが多い。このような状況において氏の豊富な知見は見事に演奏を支え、音楽家の特性や心情に寄り添う姿勢は共に音楽を作る仲間たちから多大なる安心と信頼を寄せられてきた。各楽団の海外公演の成功、ひいては活発な数々の海外公演の実施に大きく寄与し、日本のオーケストラの飛躍的發展を支えてきた氏の功績は大変に大きい。よってここに渡邊曉雄音楽基金特別賞を贈ることとする。

「公益信託 渡邊曉雄音楽基金」について

日本指揮界の重鎮、故・渡邊曉雄先生の日本音楽文化に残した多大な業績を積極的な形で今後引き継ぎ、我が国の音楽界の発展に寄与することを願い1992年6月22日に設定された。この公益信託は、信託設定の趣旨に基づき、「渡邊曉雄音楽基金音楽賞・特別賞」を設置して次代の音楽界を担う優秀な指揮者、およびオーケストラ界に貢献した関係者の顕彰を行い、もってわが国の音楽文化発展に寄与することを目的とする。

公益信託 渡邊曉雄音楽基金 運営委員会

運営委員長 渡邊 康雄 (ピアニスト)

運営委員 尾高 忠明 (指揮者)

後藤 朋俊 (公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団 常務理事)

高関 健 (指揮者)

東条 碩夫 (音楽評論家)

藤岡 幸夫 (指揮者)

「渡邊曉雄音楽基金 音楽賞・特別賞」過去の受賞者一覧

第1回(1993年度)	音楽賞:大野 和士	特別賞:延命 千之助
第2回(1994年度)	音楽賞:広上 淳一	特別賞:村川 千秋
第3回(1995年度)	音楽賞:該当者なし	特別賞:小川 昂/鈴木 清三/田中 諄
第4回(1996年度)	音楽賞:高関 健	特別賞:該当者なし
第5回(1997年度)	音楽賞:該当者なし	特別賞:佐治 敬三
第6回(1998年度)	音楽賞:金 洪才	特別賞:石丸 寛
第7回(1999年度)	音楽賞:沼尻 竜典	特別賞:松原 千代繁
第8回(2000年度)	音楽賞:大友 直人	特別賞:長岡 實/江藤 俊哉
第9回(2001年度)	音楽賞:該当者なし	特別賞:該当者なし
第10回(2002年度)	音楽賞:下野 竜也/藤岡 幸夫	特別賞:上原 正二
第11回(2003年度)	音楽賞:佐渡 裕	特別賞:渡邊 正治/山本 直純
第12回(2004年度)	音楽賞:阪 哲朗	特別賞:三善 晃
第13回(2005年度)	音楽賞:飯森 範親	特別賞:草刈 津三
第14回(2006年度)	音楽賞:該当者なし	特別賞:大川内 弘/金山 茂人
第15回(2007年度)	音楽賞:上岡 敏之	特別賞:小野寺 昭爾/田副 正武/ 日本フィル九州公演連絡会議
第16回(2008年度)	音楽賞:該当者なし	特別賞:岩城 宏之
第17回(2009年度)	音楽賞:該当者なし	特別賞:ジャン・フルネ/ 財団法人アフィニス文化財団
第18回(2010年度)	音楽賞:該当者なし	特別賞:若杉 弘/日本近代音楽館
第19回(2011年度)	音楽賞:該当者なし	特別賞:小澤 征爾 特別支援:仙台フィルハーモニー管弦楽団
第20回(2012年度)	音楽賞:山田 和樹	特別賞:中藤 泰雄
第21回(2013年度)	音楽賞:該当者なし	特別賞:永田 穂
第22回(2014年度)	音楽賞:該当者なし	特別賞:児玉 幸治
第23回(2015年度)	音楽賞:川瀬 賢太郎	特別賞:ユベール・スターン/ 秋山 和慶
第24回(2016年度)	音楽賞:該当者なし	特別賞:アレクサンドル・ラザレフ/ 池辺 晋一郎/井上 道義
第25回(2017年度)	音楽賞:該当者なし	特別賞:外山 雄三/堤 剛
第26回(2018年度)	音楽賞:該当者なし	特別賞:エリアフ・インバル
第27回(2019年度)	音楽賞:該当者なし	特別賞:本名 徹次/山田 正幸
第28回(2020年度)	音楽賞:沖澤 のどか	特別賞:豊田 泰久
第29回(2021年度)	音楽賞:鈴木 優人/原田 慶太楼	特別賞:該当者なし
第30回(2022年度)	音楽賞:太田 弦	特別賞:飯森 泰次郎
第31回(2023年度)	音楽賞:該当者なし	特別賞:田中正樹